

多機能移動式生簀の開発

水産業システム研究センター

研究の背景・目的

1. 赤潮海域から養殖魚を避難生簀まで、漁業者自らが効率的に移動する手段を開発する。
2. 赤潮発生海域において、赤潮が侵入しない閉鎖的な養殖水面を提供し、避難施設に移動できない小型魚類の避難場所を確保する。
3. 網替え、網掃除、ハダムシ除去作業の軽減を図る。

研究成果

1. 5m(横)×10m(縦)×5m(深さ)の角形養殖生簀の移動方向に、5m×5m×5mの角錐状のシートで覆われた先端を取り付けた。それによって移動時の抵抗が軽減でき、10t未満の漁船でも2ノットの速度で曳航が可能となった。
2. 生簀網は、生簀枠に設置した支柱、ウインチ及びロープにより、少人数で持ち上げることが可能となり、生簀先端のシートで覆われた部分を赤潮が侵入しない閉鎖的な養殖水面として利用できる。
3. 生簀を持ち上げて、網を空気中に出すことで、ハダムシ除去作業の間隔が延び、網掃除がほぼ不要の状況にできる。

波及効果

赤潮対策のみならず、沖出し直後のブリ類種苗の中間育成施設として、省人化、省コスト化に貢献する。



写真1 移動式生簀の製作状況 ↑



写真2 生簀枠タワーから、網部分を空中に引き上げた状態 →

(生産システム開発グループ:高木儀昌・大村智宏・田丸修・伏屋玲子)